

⑥のり養殖業

愛知県ののり養殖の歴史は古く、江戸時代末期（安政元年 1854年）に豊川河口で始まりました。

本県ののり養殖方法には支柱^{さく}柵養殖と浮流し養殖の2つがあり、秋から冬にかけて行われます。

また、渥美半島の一部の地域では黒のりの他に青のりも養殖されており、つくだ煮の原料などに用いられています。

近年は海の高水温化が課題となっており、水産試験場では高水温に強いノリ種苗の新品種の開発等を行っています。



ノリの陸上採苗

網にノリの種である殻胞子を付ける作業です。この方法が考案されたことにより、殻胞子の付着数を調整しながら計画的に種付けができるようになりました。



「もぐり船」によるノリの摘み取り

船ごとのり網の下に潜り込んで、船の前部に取り付けた装置でノリを摘み取ります。

⑦内水面漁業

愛知県の内水面漁業は、木曾川・矢作川・豊川・天竜川の各水系の河川と人工湖を含めた湖沼において行われています。

主な漁獲物は、アユを中心にアマゴ、フナ、シジミなどです。



アユの友釣り

アユは、縄張りを持つ習性を利用し、おとりを使った「友釣り」で漁獲されます。また一部地区では、空釣針を付けた仕掛けで川底をひく「コロガシ漁」なども行われています。

⑧内水面養殖業

うなぎ養殖業

愛知県のうなぎ養殖業は西尾市の一色町を中心に豊橋市、高浜市、田原市などで行われています。

現在はほとんどの養殖漁家が、生産性の高いビニールハウスでの加温養殖を行っています。

愛知県のうなぎ養殖業は、全国でも1, 2を争う生産量を誇っています。



ウナギの池揚げ作業（西尾市）

きんぎょ養殖業

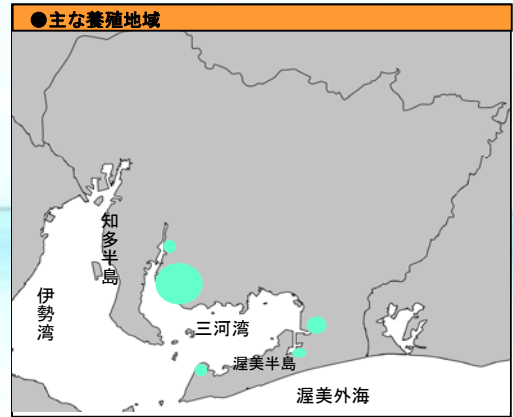
愛知県のきんぎょ養殖は江戸時代末期（文久年間 1861年頃）に始まり、現在でも弥富市を中心とした海部地区で行われています。

愛知県は全国でも屈指の生産県で、生産尾数は全国2位となっています。

養殖品種は、ワキン・リュウキン・デメキンを中心に20種以上のキンギョが幅広く生産され、他県に比べて養殖品種が多いことが特徴です。



キンギョのセリ市の様子（弥富市）



ウナギの稚魚『シラスウナギ』。まだ人工生産ができないので川でとって養殖します。



水産試験場が開発した新品種
アルビノチョウウテンガン